

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.219

2024. 1. 4
発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL 019-684-2225
FAX 019-684-2227

すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」
岩手の署名は 31,157 筆（～12 月末。うち郵送 351 通・1,364 筆）

新春メッセージ

9条を守って平和外交を進め くらしの安全を保障させる政治に転換させよう！

平和憲法・9条をまもる岩手の会呼びかけ人
憲法改悪反対岩手県共同センター事務局長・いわて労連議長 中野るみ子

皆さんは、昨年観たお薦めの映画作品はありますか？「そう言えば」と思い出しました。安倍政権の爪痕を、様々な観点から再検証するドキュメンタリー映画「妖怪の孫」です。映画では、「アベノミクス」は「やってる感が大事（中味ではない）」と安倍元首相の発言が紹介されています。「やってる感」「パフォーマンス」「なんとなく」が大事であって、中味はないのだと。そして、選挙に勝てばすべてが正しいと勘違いしている「権力」の側の恐ろしさを目撃したような、「怖さ」が印象に残る映画でした。

今、自民党派閥の政治資金パーティーをめぐる問題で政治資金規正法に違反する可能性が指摘され、大問題になっています。内閣支持率が過去最低の22%、16%と異常さをとりこして、国民にとって不幸な事態になっています。同時にそれは、「安倍的」で「自民党的」なものを刷新させるときを意味しているのではないのでしょうか。

黙っているのは、刷新はできません。何故なら、政権を手放すなど絶対にしたくないからです。例えばそれは、数の力で押しとおそうとします。日本国憲法を変えようとする動きが強まっています。12月7日、衆議院憲法審査会では自民党の中谷議員が、「国会議員の任期を延長するための改憲の提案を行い、自民、公明、維新、国民、有志の5会派の論点が一一致したので次のステージに入っていく必要がある」とし「緊急事態における国会機能の維持の憲法改正について条文起草作業に入る提案」を行ったとされています。

国民が望んでもいない「憲法改正」を、憲法を擁護し尊重する義務を負っている国会議員が改憲を主導するなど、とんでもありません。国会議員の任期延長改憲とは、すなわち民主制の根幹である国民の選挙権を停止させる改憲だとのこと。国民の審判を受けないまま権力の座に居座り続けることを可能にする改憲は、国民主権の逸脱であり、絶対にさせてはなりません。

もはや、国民の声を聞くどころか最も必要な物価対策を含む「経済対策」には、場当たりのでちぐはぐ、せこい政策しかできていないと指摘されてもしかたない岸田政権は、退陣していただくしかありません。

平和憲法9条を守って、平和外交を進め、国民生活の安全を保障させる政治に転換させる2024年にしていましょ。う。ガザへの攻撃をやめよ、ウクライナ侵略を中止せよと、引き続き声をあげていまいしょう！



街頭宣伝・署名行動・学習等に活用ください！
『必要ですか？さらなる軍事力』リーフレット

差し上げます

全国市民アクション作成のリーフレット「必要ですか？さらなる軍事力」（A5判4ページカラー）を、9条の会みなさんに無料でお送りしています。希望部数を岩手県生協連までご連絡ください。



7回目の“平和の文化祭”ピースフェスタいちのせき開催 ～一関九条の会～



10月29日に開催。過去3年間は、コロナのため、平和川柳コンテストのみの実施でしたが、今回は久々に「平和作品展」と「平和のつどい」も行いました。

平和作品展では、絵画、書、絵手紙、写真、手芸、工芸、陶芸、トールペイント、俳句、川柳、菊など100点以上のすてきな作品を展示。ロシアのウクライナ侵略やパレスチナをめぐる情勢などの影響か、今回は、以前に増して平和をテーマにした作品が多くみられました。

また、原水爆禁止のパネル展示もなされ、核兵器のない世界の実現を訴えました。年金者組合は、活動の様子を展示。日本国憲法は古希を迎えましたが、公布77年憲法展も実施しました。平和川柳コンテストは、昨年の入賞作品を掲示しました。

平和のつどいでは、憲法と平和について語ったり、憲法前文の暗唱や英語・ベトナム語での朗読、原水禁世界大会参加報告などを行いました。

一般参加者は少なかったですが、会員同士、久々に文化を通じた交流を深めました。(伊藤一好)



— ロシアの“ウクライナ侵略”がまだ続く、そこへ“ハマスとイスラエルの戦争”だ

あー嫌だ！皆さんはどうですか？—

コラム子は最近とみに周りに、“戦争のない世界”を話の合間に話しています。そんな中、先日恒例の“昼デモ”に参加し、“ロシア、ウクライナも戦争を止めろ！”“ハマス、イスラエルも戦争を止めろ！”と叫びながらデモ行進。コラム子は“巷間反戦、厭戦の気分が高揚しつつあるのかな？！”と感じました。皆さんは如何でしたか。

機械的な引き写しですが例によって報道文を見てみましょう。

「【ワシントン、エルサレム共同、‘23・12/14付け岩手日報】米警告「世界の支持失う」イスラエルのガザ爆撃非難 国連総会停戦要求 バイデン米大統領は12日、パレスチナ自治区ガザでイスラム組織ハマス掃討を続けるイスラエルに「無差別爆撃で国際社会の支持を失い始めている」と警告した。国連総会は12日、ガザでの即時停戦を求める決議案を採択。総会が人道的休戦を要請する決議を採択した10月下旬に比べ、賛成国が30ヵ国以上増え（うち日本一前回「棄権」、今回「賛成」！）、イスラエルの軍事作戦が国際的支援を失っていることが示された。イスラエル軍は13日もガザ全域で攻撃を続けた。

バイデン氏はイスラエルを擁護する一方、民間人犠牲者を最小限にするよう忠告して来た。ただ犠牲者増加で国際社会の反発強まることを受け、ワシントンでの集会で欧州など多くの国の支持が離れているとし、強硬な作戦の転換を迫った。戦闘後のガザ統治を巡っては、パレスチナ国家創設による「2国家共存」（1992年国連の提案）の受け入れを要求。ネタニヤフ政権を「イスラエル史上最も保守的な政権」とし、共存に反対する政権内の極右閣僚の交代を念頭に内閣改造が必要だとの認識を示した。…

ネタニヤフ氏は12日のビデオ声明で、パレスチナとの共存を目指した1993年のパレスチナ暫定自治宣言（オスロ合意）を拒否する立場を強調した。」

コラム子の意見。①米政府は「二枚舌」の国際政治を改めること、②イスラエルは「政教分離」で国連提案の「2国家共存」を認めること、③日本政府は「米言いなり」ではなく、今回の如く「自主的な」国際政治の姿勢を取ること。以上であります。(T)



「1月の岩手の会街宣行動」

9日(火)12:30~13:00盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加下さい。